

国立情報学研究所 「情報学のトップ才能からエリートへ—才能の発掘、接続、達人の養成—」

●育成したい人材像

- 情報学分野では30-35歳位までに世界トップクラスに辿り着く必要がある
- そのため高校生年代のトップ才能を最先端研究に触れさせる
- 情報学分野における高校世代のトップ才能を世界的なエリート研究者へと育成する

●背景（問題意識）

- 我が国の情報学分野における高校生のトップ才能は、情報オリンピックでも優秀な成績をおさめるなど世界トップクラス
- しかし情報学におけるエリート養成は、高校、高専、大学、そして大学院と連携・接続がないと言わざるを得ない状況である
- 高校卒業から10年程度をかけエリートを育成するエコシステムの構築が必要

●企画の主な特徴

情報学の国内トップ才能を世界的エリート研究者に育てる

- 情報学分野の唯一の公的研究機関である国立情報学研究所が、全国の大学、研究者との連携をサポート
- 情報学分野の最大の学会である情報処理学会が、プログラムの全国展開をサポート
- 情報オリンピック日本委員会が、情報オリンピックでの優秀な高校生を選抜
- 若手研究者を中心とするメンターを配し、各大学の研究室と連携して受講生へのアドバイスとフォローアップを行う
- 育成プロセスの第1段階で国内大学の研究室で最先端研究を広く浅く学び、第2段階では受講生自身がトップ研究者と共同研究を行う
- 受講生・修了生と若手研究者との交流を通して、情報学コミュニティへの参入を促し、将来メンターとして戻ってくる「エコシステム」構築を目指す

●企画の主体組織

情報・システム研究機構 国立情報学研究所

●連携機関

（共同機関）情報オリンピック日本委員会、情報処理学会

●企画の最終目標

高校年代の情報学分野のトップ才能と大学・大学院のエリート研究者との接続を行い、エリート研究者を育成する。特別優秀なトップ才能には海外著名大学での研究機会を提供する。将来的に修了生がメンターとして戻ってくる「エコシステム」の構築を目指す。

